流通科学大学教育高度化推進センター紀要　第 4 号，13-30(2007)

大学新入生の生活意識に関する研究

A Study of First-Year Students' Attitudes toward Life

藤井啓吾*・栗田真樹**・棚橋菊夫***
Keigo Fujii, Maki Kurita and Kikuo Tanahashi

Abstract

多様化する学生のニーズ、特に大学新入生の意識をとらえることは、教育課程の基礎資料として、あるいは将来の進路へとつながるキャリア教育のために非常に重要である。本研究は、2007 年 7 月に流通科学大学サービス産業学部観光･生活文化事業学科 1 年生を対象として行われた「学生生活に関する意識調査」の結果について、単純集計を中心に報告し、その知見に関して議論するものである。

キーワード：大学新入生、生活意識、教育改善、キャリア教育

I　はじめに

1. 本調査の目的

筆者らが所属する、流通科学大学サービス産業学部観光・生活文化事業学科は、2001 年 4 月の学部開設以来、2007 年度をもって 7 年目を迎えた。本学科は、その名が示すとおり、観光事業と生活文化事業に関する教育・研究を 2 本の柱としている。

本学科では、2006 年度より新たなカリキュラムを導入し、また、学科定員の改定により、2007 年度から 50 名増員された 150 名定員の学生を迎えている。これらの変化のもとでの学生の意識の一端を明らかにしようとするのが、この調査の主な目的である。

従来、学生の意識については、個々の授業科目において行われる「授業改善アンケート」を中心に行われ、それにより、授業科目ごと、教員ごとに教育内容の改善に向けた努力が継続的になされてきた。しかしながら、本学あるいは本学科の提供する教育内容や、学生相互の関係によって形成されるものも含めた大学生活全般についての学生の意識を知ろうとする試みは、かならずしも十分ではなかったように思われる。

筆者らも、身近に接する学生から学部・学科のカリキュラムや本学の運営に関し、様々な要望・意見を耳にすることが少なくない。また、学内の様々な論議の場面で、「学生はこう言っている」、「学生はこう要望している」といったことがらが論拠とされる事態にしばしば遭遇する。筆者ら

*流通科学大学サービス産業学部、〒651-2188　神戸市西区学園西町 3-1
** 同上
***同上

（2007 年 9 月 21 日受理）

©2007 Center for Research and Development in Higher Education

が、そのつど感じるのは、果たしてそれらの要望・意見が学生らの多数を代表するものなのかという、ある種の落ち着きの悪さである。

むろん、筆者らは、無条件に学生らのより多数の意思に従って大学が運営されるべきだ、ということを主張しようとするものではない。しかし、少なくとも、学生らの多数の意思の存在を根拠に、大学運営上のある行動選択がなされるのであれば、その意思の存在がより客観的に検証されていることが望ましい。また、学生らの意識が、本学、学部、学科の教育理念に照らし、改められるべきであるというのであれば、改められるべき対象となるべき学生らの意識をより正確に認識することが改善のための第一歩となろう。

2. 調査方法、調査内容、調査結果などの概要

本学では、1 年次の学生に対し、必修科目として 1 年間の基礎演習（「基礎演習 A」、「基礎演習 B」）を提供している。今回の調査では、筆者らが、「学生生活に関する意識調査」と題する調査票を作成（様式を本稿末尾に添付）、本学科において 2007 年度基礎演習を担当する全教員に依頼し、それぞれの基礎演習を受講する 1 年生（全員本学科生）を対象として、前期の終盤に調査を実施した。その結果、2007 年度の本学科 1 年生 161 名（2007 年 5 月 1 日現在在籍者）のうち 126 名から有効な回答を得た（回収率 78.3%）。

調査は、大学生活において重視する活動、学科において勉強したい分野、本学に対する評価、授業に対する評価、入学前の本学に対する認知・志望動機、就職に対する意識、その他本学における生活意識、性別、高校の出身科、学内団体への所属の有無について回答を求めた。本稿は、これらのうち各質問項目に対する回答、すなわち単純集計を中心に調査内容を報告するものである。

Ⅱ. 調査結果内容

1. 大学生活において重視する活動

この点について本調査では、11 の項目にわたって、大学生活において重視する程度を 5 段階に分けて質問した。

学生がどのような項目を重視しているかを見るために、「非常に重視している」と「やや重視している」を合わせたものを回答数の多いものから順に並べると、表 1 のとおりである。

大学生であるからには当然、というべきかもしれないが、知識の習得、資格取得など勉学に関する項目が上位にランクされる。もっとも、勉学に関するものの中でも、基礎演習や研究演習などゼミ形式の授業に対する重視度は相対的に低い。また、学内外の課外活動の位置づけも、比較的低位にとどまっている。

表1　大学生活において重視する活動（男女計）

活動項目	実数(人)	(%)
1 基礎的知識の習得	104	82.5
2 専門的知識の習得	102	81.0
3 資格取得	96	76.2
4 趣味の活動	89	70.6
5 勉強全般	85	67.5
6 アルバイト	75	59.5
7 基礎演習での勉学・活動	74	58.7
8 旅行	72	57.1
9 学内での課外活動	68	54.0
10 研究演習(ゼミ、卒論)での勉学・活動	66	52.4
11 学外での課外活動	52	41.3

（出所：調査データに基づき筆者作成）

「研究演習」については、2 年次の後期からの開講であり、調査時点では学生にとって未経験のものであるためか、「どちらともいえない」と回答した学生の割合が比較的高い (34.1%)。このことが、「重視する」とする学生の割合を押し下げている面もあろう。しかし、基礎演習については、すでに前期の大半の授業を終えた段階での経験を踏まえた上での回答であるから、必ずしもそのような推測はあたらない。「どちらともいえない」と回答した学生の割合は 27.8% である。

男女間を比較した場合、概ね同様の傾向を示しているが、その中で比較的差が大きいのは、「資格取得」についてである (表 2)。女性の場合、「資格取得」が大学生活において重視する活動のトップに位置づけられ、女性の 87.9% が、「非常に重視している」(50.0%) または「重視している」(37.9%) と答えている。「資格取得」は、女性の場合、「非常に重視している」の中でもトップにランクされることから見ても、女性の資格取得指向の強さをうかがうことができる。

加えて、ランクの低い項目についても、男性と比較して全体的に女性のほうが重要視する比率

表2　大学生活において重視する活動（男女別）

	男			女	
	実数(人)	(%)		実数(人)	(%)
1 基礎的知識の習得	49	81.7	1 資格取得	58	87.9
1 専門的知識の習得	49	81.7	2 基礎的知識の習得	55	83.3
3 趣味の活動	44	73.3	3 専門的知識の習得	53	80.3
4 勉強全般	39	65.0	4 勉強全般	46	69.7
5 資格取得	38	63.3	5 趣味の活動	45	68.2
6 基礎演習での勉学・活動	36	60.0	6 学内での課外活動	44	66.7
7 アルバイト	33	55.0	7 アルバイト	42	63.6
8 旅行	30	50.0	7 旅行	42	63.6
8 研究演習での勉学・活動	30	50.0	9 基礎演習での勉学・活動	38	57.6
10 学内での課外活動	24	40.0	10 研究演習での勉学・活動	36	54.5
11 学外での課外活動	22	36.7	11 学外での課外活動	30	45.5

（出所：調査データに基づき筆者作成）

が高い。それだけ女性のほうが大学に期待するものが大きいといえようか。

次に、「非常に重視している」との回答についてのみの順位をみてみよう（表 3)。

表3　大学生活において非常に重視する活動　（男女計）

活動項目	実数(人)	(%)
1 専門的知識の習得	56	44.4
2 資格取得	53	42.1
3 趣味の活動	42	33.3
4 基礎的知識の習得	37	29.4
5 アルバイト	29	23.0
6 旅行	27	21.4
7 学内での課外活動	22	17.5
8 研究演習(ゼミ、卒論)での勉学・活動	20	15.9
9 基礎演習での勉学・活動	19	15.1
10 勉強全般	18	14.3
11 学外での課外活動	18	14.3

（出所：調査データに基づき筆者作成）

勉学に関連しては、「専門的知識の習得」や「資格取得」が依然として上位にとどまっているのに対し、「基礎的知識の習得」や「勉強全般」といった項目は後退していく。これに対し、「趣味の活動」、「アルバイト」、「旅行」といった項目は、相対的に高い位置を占めている。

「非常に重視している」項目は、個々の学生にとって、強い「こだわり」のある項目と考えることが可能であろう。その結果、「やや重視している」を合わせた結果とは異なり、より個々の学生の「こだわり」が反映されやすい項目の位置づけが相対的に上昇したものと考えられる。その観点からすれば、4 割を超える学生が「専門的知識の習得」や「資格取得」に対して強いこだわりをもっているという点は注目されてよかろう。

さらに、これを男女別で見てみる（表 4）。

表4　大学生活において非常に重視する活動（男女別）

	男			女	
	実数(人)	(%)		実数(人)	(%)
1 専門的知識の習得	28	46.7	1 資格取得	33	50.0
2 趣味の活動	21	35.0	2 専門的知識の習得	28	42.4
3 資格取得	20	33.3	3 基礎的知識の習得	26	39.4
4 アルバイト	14	23.3	4 趣味の活動	21	31.8
5 学外での課外活動	13	21.7	5 旅行	17	25.8
6 基礎的知識の習得	11	18.3	6 アルバイト	15	22.7
7 旅行	10	16.7	7 学内での課外活動	14	21.2
8 学内での課外活動	8	13.3	8 研究演習での勉学・活動	12	18.2
8 研究演習での勉学・活動	8	13.3	9 基礎演習での勉学・活動	11	16.7
8 基礎演習での勉学・活動	8	13.3	10 勉強全般	11	16.7
11 勉強全般	7	11.7	11 学外での課外活動	5	7.6

（出所：調査データに基づき筆者作成）

男性は「専門的知識の習得」の割合が抜きん出て高く、女性は「資格取得」の割合が半数に達している。

「専門的知識の習得」に関しては、女性においても 4 割を超えているので、顕著な差があるとは認められない。一方、「資格取得」に関しては、男女間で 16 ポイント以上のかなり顕著な差が存在する。さらに、「基礎的知識の習得」については、女性が 21 ポイントも上回っている。学外の活動とはいえ専門分野と関連の深い「旅行」についても、女性は男性を 9 ポイント上回っている。

2. 専門学習における関心分野

先にも述べたように、男女を通じて大学生活において「専門的知識の習得」を重視する傾向は非常に強い。そのような「専門的知識の習得」の主たる場である専門科目を中心に、どのような分野に関心があるのかをきいた。「ぜひ勉強したい」または「やや勉強したい」と答えた学生を総計すると表 5 のとおりである。

本学科は、観光事業と生活文化事業の 2 つの分野を専門教育の柱としているが、「観光・旅行」、「ホテル・宿泊」といった観光分野への関心がより高いということが分かる。また、生活文化事業分野に対しては、9 位の「スポーツビジネス」まで含めてそれぞれの分野でほぼ半数以上の学生が関心を寄せている。

「流通・販売」、「運輸」、「マーケティング」といった、対象が比較的広範囲に及ぶ科目については、「どちらともいえない」という回答が比較的多いが（順に、39.7%、38.9%、42.1%）、「あまり勉強したくない」、「全く勉強したくない」といった消極的な評価は比較的少ない（順に、15.1%、21.4%、19.8%）。この段階では、それらの分野の科目においてどのような内容を履

表5　専門学習における関心分野（男女計）

活 動 項 目	実数(人)	(%)
1 観光・旅行	106	84.1
2 ホテル・宿泊	97	77.0
3 アミューズメント・エンターテイメント	94	74.6
4 テーマパーク	91	72.2
5 イベント（街づくり、まつり、プロモーション等）	87	69.0
6 ファッション・アパレル	79	62.7
7 ブライダル	64	50.8
8 外食・フードサービス	62	49.2
9 スポーツビジネス	62	49.2
10 流通・販売	57	45.2
11 運輸（鉄道、航空等）	50	39.7
12 マーケティング	47	37.3
13 メンタルヘルス・カウンセリング	22	17.5
14 介護・福祉サービス	18	14.3
15 医療サービス	11	8.7

（出所：調査データに基づき筆者作成）

修するのか十分に把握できていないことも、この結果に影響しているようである。

これに対し、本学科と並んで本学部を構成する医療福祉サービス学科における履修分野である、「メンタルヘルス・カウンセリング」、「介護・福祉サービス」、「医療サービス」といった分野への関心は低く、また、消極的な評価を示した回答がかなり多い（順に、46.8%、50.8%、53.2%）。同じ学部に所属しながら、医療福祉サービス学科との間の垣根は高いと認識せざるを得ない。しかしながら一方で、少数ではあるが、これらの分野について関心を示す学生がいることは特筆すべきである。

3. 流通科学大学に対する学生の評価

問 3 では、流通科学大学の設備や教育内容につき新入生の評価をきいた。

表 6 に示すとおり、全学生の 75%が、大学の全般的な設備に対して「よい」（「非常によい」と「ややよい」の合計）という評価をしている。しかしこれに比べ大学の全体的な雰囲気に対しては、62%と評価が低下している。

大学の設備については、コンビニエンスストア（84%）、学生食堂（75%）、体育館（74%）の評価が高い。一方、喫煙場所に対しては「よくない」というマイナスの評価が高い（26%）。

教育カリキュラムや授業内容などの学業に対する評価は、いずれの項目においても「よい」と

表6 流通科学大学に対する学生の評価（男女計）

	5段階評価（n=126）				平均値	実数（人）	標準偏差
	よい(計)(%)	どちらともいえない(%)	よくない(計)(%)	不明(%)			
全体的な雰囲気	61.9	27.8	9.5	0.8	3.7	125	0.9
全般的な設備	75.4	21.4	3.2		4.1	126	0.9
教室	69.8	24.6	5.6		3.9	126	0.8
図書館	61.9	29.4	8.7		3.7	126	0.9
メディアセンター	68.3	29.4	2.4		4.0	126	0.9
体育館	73.8	24.6	1.6		4.1	126	0.8
学生食堂	75.4	18.3	6.3		4.0	126	0.9
コンビニエンスストア	84.1	11.9	4.0		4.3	126	0.8
クラブハウス・学生会館	42.1	50.8	6.3	0.8	3.5	125	0.9
休憩場所	50.8	38.9	10.3		3.6	126	0.9
喫煙場所	30.2	42.9	26.2	0.8	3.0	125	1.1
駐車場	50.8	43.7	4.8	0.8	3.7	125	0.9
教育カリキュラム	42.9	51.6	4.8	0.8	3.5	125	0.7
全般的な授業内容	40.5	44.4	15.1		3.3	126	0.8
全体的な授業のレベル	41.3	46.8	11.1	0.8	3.3	125	0.8
履修すべき授業時間数	39.7	48.4	11.9		3.3	126	0.8
教員の対応	39.7	49.2	11.1		3.3	126	0.8
職員の対応	44.4	46.8	8.7		3.4	126	0.8
通学時間	41.3	32.5	26.2		3.2	126	1.2
奨学金制度	32.5	56.3	11.1		3.3	126	0.9

（出所：調査データに基づき筆者作成）

いう回答の割合は 40%前後となっている。

性別では、ほとんどの項目において男女による評価の差はない。また、サークルやクラブへの所属の有無による評価においても違いがみられない。

以上のように、新入生の多くは大学の設備に対しては高い評価をしているものの、学業に関しては調査した時期が入学してから 3 ケ月後ということもあり、あまりよい評価をしていない。この点については、追跡調査して検証する必要があろう。

4. 授業に対する意見

筆者らが、これまでの大学教員としての経験の中で、学生からの要望が多かった項目を中心に、学生の意見をきいた（表 7）。

「全くそう思う」または「ややそう思う」と、支持を受けた意見をランキングすると次のとおりである。

新入生の資格指向の強さについては、すでに述べたとおりであり、それが授業に対する意見にも現れている。また、上位 2 つの意見が、「資格取得に役立つカリキュラムを増やして欲しい」「専門科目を低学年から充実して欲しい」といった、カリキュラムの内容に対する意見であることも目をひく。それに続く意見の多くは、「休み時間が短く、教室移動に支障をきたしている」などの時間割編成に対する意見である。カリキュラム内容に対する 2 つの意見は、8 割程度の学生が支持しているのに対し、時間割編成に対する意見に対する支持は 6 割前後である。これに「年間の単位取得制限をゆるめて欲しい」という意見が続く。

やや、意外だったのは、「私語が多く、授業に集中できない」という私語に対する不満、これも含めて、「受講する学生数と教室定員がアンバランスである」、「大教室の授業は集中しづらいので少人数の授業を増やして欲しい」といった授業環境に対する要望は、相対的には低位にとど

表7　授業に関し、支持する意見（男女計）

活動項目	実数(人)	(%)
1 資格取得に役立つカリキュラムを増やして欲しい	101	80.2
2 専門科目を低学年から充実して欲しい	99	78.6
3 休み時間が短く、教室移動に支障をきたしている	78	61.9
4 1コマ90分の授業は長すぎる	77	61.1
5 学生のニーズや視点に立った授業内容にして欲しい	76	60.3
6 特定の曜日や時間帯に授業が集中しているので、偏りをなくして欲しい	71	56.3
6 自分の取りたい授業が他の科目と重複して履修できない	71	56.3
8 年間の単位取得制限をゆるめて欲しい	64	50.8
9 私語が多く、授業に集中できない	59	46.8
10 受講する学生数と教室定員がアンバランスである	54	42.9
11 大教室の授業は集中しづらいので少人数の授業を増やして欲しい	53	42.1
12 一般教養科目をもっと重視すべきである	48	38.1

（出所：調査データに基づき筆者作成）

まっているという点である。日常的には、授業改善アンケートなどを通じて、これらに対する要望・不満に接する機会が多いことから、もっと上位に来ることも予想していたが、そうではないようである。

もちろん、これらの授業環境に対する意見・要望も、4 割から 5 割の学生が支持しているのであるから、決して無視することはできないし、改善に向けての継続的な努力が求められる。ただ、注意しなければならないのは、より多くの学生がカリキュラムや時間割編成についての要望をもっているということである。

「一般教養科目をもっと重視すべきである」という意見は、相対的には少ないが、それでも 4 割近くの学生が「全くそう思う」または「ややそう思う」と回答している。この項目に対しては、「どちらともいえない」と回答した学生が最も多く（49.2%)、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」という否定的な意見は、合わせても 12.7% にとどまっている。

5. 入学契機

問 5 から問 8 は大学の認知経路(問 5)、学科の認知経路（問 6)、学科受験の動機(問 7)、学科入学決定の動機(問 8)を尋ねる質問項目である。これらの項目はいずれも複数回答の形式（M.A.＝Multiple Answer）である。ここでは調査回答者数に対する回答数の割合で、20%を超えるものを便宜的に取り上げることにする。

a. 大学の認知経路（問 5）

「高校での受験指導」「知人･友人」が 40%を超え、「受験雑誌」「インターネット」の順で 20%を超えている。

b. 学科の認知経路(問 6)

「高校での受験指導」「流通科学大学の案内」が 40%を超え、「受験雑誌」「知人･友人」「インターネット」の順で 20%を超えている。

c. 学科受験の動機(問 7)

「志望の学科だった」が 57.1%と圧倒的に多く、「志望の大学だった」「自宅が近い」「自分の学力に合っている」の順で 20%を超えている。

d. 学科入学決定の動機(問 8)

「志望の学科だった」が 60.3%と圧倒的に多く、「志望の大学だった」「自分の学力に合っている」の順で 20%を超えている。

以上より、大学、学科ともに認知経路としては「高校での受験指導」が最も多く、大学の認知経路としては「知人･友人」、学科の認知経路としては「流通科学大学の案内」の割合が高い。また、学科受験動機、学科入学決定動機ともに「志望の学科だった」ことが圧倒的に多く、「志望の大学だった」「自分の学力に合っている」とする「志望」「学力」理由が上位を占めた。入学決定動機

ではわずかに便宜的基準とした 20%を切っているが(19.8%)、「自宅が近い」とする回答から、学科受験･入学決定には｢地元志向｣があることが伺える。しかしながら、これらはあくまで学生が述べる主観的な理由であって、現実の選択を納得させるための認知的不協和解消のための理由なのかもしれない。

6. 将来の進路

卒業後の進路として、学生が希望する業種と職種について調査した。業種としては本学のキャリアセンターが卒業生の進路についてまとめた 13 分類を、職種についてはリクルートナビの 10 分類を使用して、第 3 志望まで答えてもらった。

表 8 は、将来の進路としてあがった第 1 志望から第 3 志望までの業種を示している。第 1 志望から第 3 志望のいずれかにあがった業種をみると、「サービス業」（88.9%）がトップ、ついで「飲食店・宿泊業」（65.9）となっており、3 位以下を大きく引き離している。

男女別では、女子学生は「サービス業」や「飲食・宿泊業」への志望が男子学生を上回っている。一方、男子学生は、女子学生に比べて「製造業」「金融・保険業」「公務員」を志望する者が多い。

同様に、表 9 は志望する職種として第 1 志望から第 3 志望にあげた学生の割合である。第 1 志望から第 3 志望までにあげられた職種としては、「サービス・販売」職（84.9%）が 1 位になっている。男女別では、男子学生ではいろんな職種に志望が分散しているのに対して、女子学生はサービスや販売に関連する職種に集中している。

表8　就職志望業種

(%)

	合計 n=126	第1志望	第2志望	第3志望	男 n=60	女 n=66
サービス業	88.9	57.1	25.4	6.3	81.7	95.5
飲食店・宿泊業	65.9	19.8	33.3	12.7	55.0	75.8
小売業	23.8	2.4	9.5	11.9	20.0	27.3
製造業	20.6	0.0	5.6	15.1	23.3	18.2
運輸業	13.5	3.2	4.8	5.6	11.7	15.2
金融・保険業	10.3	1.6	1.6	7.1	16.7	4.5
情報通信業	7.9	0.0	1.6	6.3	10.0	6.1
不動産業	7.1	0.8	2.4	4.0	11.7	3.0
卸売業	4.8	0.0	1.6	3.2	8.3	1.5
建設業	2.4	0.8	0.8	0.8	5.0	0.0
公務員	29.4	7.9	7.9	13.5	31.7	27.3
その他	6.3	4.8	1.6	0.0	8.3	4.5
進学	5.6	0.8	0.8	4.0	6.7	4.5
就職するつもりはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不明	13.5	0.8	3.2	9.5	10.0	16.7

（出所：調査データに基づき筆者作成）

表9　就職志望職種

(%)

	合計 n=126	第1志望	第2志望	第3志望	男 n=60	女 n=66
サービス・販売	84.9	59.5	19.0	6.3	78.3	90.9
企画・マーケティング	47.6	8.7	26.2	12.7	40.0	54.5
営業	35.7	6.3	13.5	15.9	36.7	34.8
事務（総務、人事、法務、事務など）	23.8	2.4	11.1	10.3	10.0	36.4
管理（資材、購買、貿易、物流など）	20.6	4.8	7.1	8.7	31.7	10.6
クリエイティブ系	16.7	1.6	7.1	7.9	21.7	12.1
専門職系（ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ・金融・不動産など）	16.7	4.8	4.0	7.9	26.7	7.6
経理（経理、財務、会計など）	10.3	1.6	0.0	8.7	13.3	7.6
技術系（メーカー系）	7.9	2.4	3.2	2.4	8.3	7.6
技術系（IT・通信系）	4.8	0.8	0.8	3.2	8.3	1.5
その他	6.3	5.6	0.0	0.8	6.7	6.1
進学	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就職するつもりはない	4.0	0.0	0.8	3.2	3.3	4.5
不明	20.6	1.6	7.1	11.9	15.0	25.8

（出所：調査データに基づき筆者作成）

7. 流通科学大学に対する意見

学生の流通科学大学に対する態度をみるために、流通科学大学（以下、「流科大」と略記する。）に関連する 11 項目について、「全くそう思う」から「全くそう思わない」の 5 段階評価で尋ねた。

各項目に対する肯定的な反応（「全くそう思う」と「ややそう思う」の合計）と否定的な反応（「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）を表 10 に示す。

結果をみると、「流科大の世間的評価は高い」「流科大をまわりの人は評価している」という意見に対して、そう思わないという否定的な反応が肯定的な反応を上回っている。

一方、「流科大は自分にふさわしい大学である」「流科大に満足している」「流科大を後輩にすすめたい」「流科大で自分の居場所をみつけることができた」という意見に対しては、そう思うとい

表10　流科大に関する意見への反応

(%)

n=126	そう思う（計）	どちらともいえない/不明	そう思わない（計）
流通科学大学の世間的評価は高い	22.2	42.9	34.9
流通科学大学は自分にふさわしい大学である	50.8	34.9	14.3
流通科学大学を後輩に薦めたい	43.7	34.9	21.4
授業以外の目的で流通科学大学によく来る	19.0	27.0	54.0
流通科学大学をまわりの人は評価している	20.6	50.8	28.6
流通科学大学の教職員に好意的な印象をもっている	31.0	51.6	17.5
流通科学大学で自分にふさわしい場所をみつけることができた	41.3	43.7	15.1
流通科学大学に来るのは面倒くさい	34.9	38.1	27.0
友人とのコミュニケーションが目的で流通科学大学によく来る	38.9	42.1	19.0
流通科学大学は学生へのサービスがすぐれている	33.3	52.4	14.3
流通科学大学に満足している	48.4	36.5	15.1

（出所：調査データに基づき筆者作成）

う肯定的な反応が多くなっている。

また、「流科大に満足している」という意見に対する反応は、男女別では殆ど差がないが、学内サークル・クラブの所属の有無でみると、「所属している」学生ではそうでない学生より肯定的な反応が多い。

8. 出身課程

問 13 は出身高校の教育課程を尋ねる質問項目である(表 11)。

普通科出身の学生が圧倒的多数を占め、他の課程の学生はわずかである。しかし、ここで注目すべきは実数としては 6 人と少数ではあるが、総合学科出身の学生である。総合学科は、1994 年高等学校設置基準改正によって制度化された教育課程である。この総合学科は普通科と、商業科・工業科などの職業科の教育課程を統合する課程として位置づけられ、いわばどちらの進路にも対応できるという教育課程である。その教育課程の特徴として将来の進路に関する「産業社会と人間」という必修科目が設けられている [1)]。

総合学科の数は全国で、1994 年の 7 校から 2006 年の 298 校へと増加してきている [2)]。本学においても今後も少なからずその課程の卒業生が入学することが予想される。キャリア教育は大学の選択に関して重視され [3)]、流通科学大学においても力を入れている領域である。今後、キャリア教育だけでなく、全般的な教育課程に関しても、これらの課程の出身者あるいは多様な課程の出身者が、高校において履修してきたことを踏まえつつより高度な大学としての教育が求められるであろう。また、サービス産業という「産業社会」の一つの特徴を学部の専門領域とするサービス産業学部においては、高等学校での教育との関連性という点から今後学生の入学が期待できる教育課程と言うことができるであろう。

表11　出身高校の教育課程（男女計）

	実数（人）	（%）
1. 普　通　科	99	78.6
2. 総　合　科	6	4.8
3. 商　業　科	10	7.9
4. 工　業　科	2	1.6
5. そ　の　他	9	7.1
合　計	126	100.0

（出所：調査データに基づき筆者作成）

Ⅲ.　おわりに――調査結果から見えてくるもの

1. 新入生にとって「基礎的知識」とは

先に見たように、大学生活において新入生が重視する活動を問うた場合、全体および男性につ

いては「基礎的知識の習得」をあげるものが最も多かった（表 1, 2)。これに対し、「非常に」重視する活動としては、「基礎的知識の習得」は、全体で 4 位、男性では、6 位にまで順位を下げる(表 3, 4)。一方で、女性については、2 位にとどまっている（表 4)。

また、一般に基礎的知識習得の場としてとらえられがちな「基礎演習での勉学・活動」はさほど重視されていないし（表 1, 2)、「一般教養科目をもっと重視すべきである」という意見もあまり多くない（表 4)。

このような結果は、新入生が「基礎的知識」と位置づけているのは、あくまで、観光・旅行・宿泊などをはじめ、新入生が大学生活において「非常に」重視する、「専門的知識の習得」に直結するような「基礎的知識」、即ち、観光・旅行・宿泊などに関する入門的知識であることを示しているように見える。

2. ゼミ、課外活動の位置づけ

新入生は、講義形式の授業の聴講、資格取得、趣味の活動など、自己完結的に達成できることがらをより重視する一方、演習形式の授業や課外活動など他者との関わり合いを必要とすることがらに対しては、やや消極的であるとの印象を受ける（表 1 など)。「少人数の授業を増やして欲しい」との意見があまり多くなく、授業環境よりもカリキュラムや時間割編成に対する要望がより多い （表 4）のも、同様に、他者との関わりよりも、自分自身に直接に関わることがらを、より重視する傾向を示しているようにみえる。

もっとも、一方で、詳しく触れることができなかったが「問 14　現在、学内のサークルやクラブに所属していますか」という問いに対し、男性の 46.7%、女性の 77.3%、全体で 62.7% の学生が「所属している」と答えている。この比率を高いと見るか、低いと見るかは評価が分かれるところである。

専門的知識の習得や資格取得に対する新入生の関心の強さは、就職を含め卒業後を見据えてのことと推測されるが、卒業後は大学生活以上に他者との関わり合いが重要なものとなってくるのが一般的であろう。そうであるがゆえに、近年、本学においても、ゼミ活動や学内課外活動をいっそう促すための方策がとられている。しかし、そのための学生の動機付けが十分になされなければ、学生の望むものとは異なったものを提供することになりかねないことを、今回の調査結果は示しているようにも見える。

3. カリキュラム編成に関して

新入生は、専門的知識の習得や資格取得をめざし、総じて高い学習意欲をもっていることがうかがえる。また、大学から提供されるカリキュラムに対しても強い期待を寄せている。これらのフレッシュな意欲を萎えさせることなく、4 年間維持することを可能にするようなカリキュラム

を整えることは、大学にとっても重要な使命と考えられる。

そのためには、学生の関心の非常に高い、「観光・旅行」、「ホテル・宿泊」といった分野を中心とする、学科専門科目の導入的科目を、これまで以上に、1 年次前期から数多く配置する必要があろう。そして、これらの科目は、次のような役割を併せて担うことが適当と考える。

・観光・旅行・宿泊などに関する「消費者」としての経験的知識を、それらを提供する事業者としての視点に発展させる

・事業者として、あるいはそれらに雇用される者として活躍する上で、本学科生として本学で学ぶ学問が、具体的に、どのような場面で、どのように必要とされるか、どのようにその力を発揮するのか、を認識させ、専門科目のみならず、教養科目や外国語科目も含めて、カリキュラムを構成する各科目を履修する動機付けを行う

・同様に、本学で学ぶ内容と資格取得との関連性、さらには資格取得と卒業後の実践との関係を認識させることにより、学ぶことへの動機付けとする

本学科でこれらの科目を担当している教員は、いずれも実務における経験をベースに教育・研究活動に従事していることから、入門から卒業後までの学生の成長を見通しながら、これらの学科専門科目の導入的科目を運営していく必要があるだろう。

基礎演習を中心とする初年次教育やキャリア教育も、これらの科目と有機的な関係を保ちつつ展開されることが望まれる。

参考文献

服部次郎『産業社会と人間―よりよき高校生活のために』学事出版、2003 年.

服部次郎『産業社会と人間　実践の手引き』学事出版、2004 年.

参考 URL

「総合学科について」文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/04033101.htm

注

1) 「産業社会と人間」の教育内容については、服部次郎『産業社会と人間―よりよき高校生活のために』学事出版、2003 年．服部次郎『産業社会と人間　実践の手引き』学事出版、2004 年．などを参照。

2) 「総合学科について」文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/04033101.htm

3) 「知らずに入れるな!!日本の大学は今どうなっているのか？　キャリア教育戦争最前線」『2005/9/1 号　別冊週刊ダイヤモンド』pp.39-44、ダイヤモンド社、2005 年.

2007 年 7 月

流通科学大学　サービス産業学部

観光・生活文化事業学科

「学生生活に関する意識調査」

～協力のお願い～

前期も終わりに近づきましたが、定期試験、夏休みを控え、みなさんますます勉学、課外活動などに励んでいることと思います。さて、このたび観光･生活文化事業学科では 2007 年度入学生を対象として、「学生生活に関する意識調査」を実施することになりました。この調査は、現在の皆さんの考えを把握することによって、大学、学科のカリキュラムや設備、進路指導などを充実させることを目的に企画されました。

調査票には、名前を書く必要はありません。調査結果は統計的に処理され、個人の回答が特定されるようなことはありません。また、回答の内容が成績評価に影響することもありませんので、皆さんの率直な考えをお知らせください。

【記入の仕方】

・該当する選択肢の番号に○印をつけてください。質問によって、一つだけ○印をするものと、複数に○印をするものがあります。

・回答欄（　　）が設けてあるものには、その内容を具体的に記入してださい。

・質問の順に、回答してください。

・統計処理が出来なくなりますので、すべての問に答えてください。

・提出する前に、回答の抜けやモレがないかよく確認してください。

以上、協力のほどよろしくお願いします。

---------- ＜　ここからが質問です。　＞ ----------

「学生生活に関する意識調査」調査票

問 1　あなたは大学生活で、つぎの活動をどの程度重視していますか。それぞれについて該当する番号にをつけてください。（各項目に○印を一つ）

	非常に重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
1. 勉強全般	1	2	3	4	5
2. 基礎的知識の修得	1	2	3	4	5
3. 専門的知識の修得	1	2	3	4	5
4. 基礎演習での勉学・活動	1	2	3	4	5
5. 研究演習での勉学・活動	1	2	3	4	5
6. 学内での課外活動	1	2	3	4	5
7. 学外での課外活動	1	2	3	4	5
8. 資格取得	1	2	3	4	5
9. アルバイト	1	2	3	4	5
10. 旅行	1	2	3	4	5
11. 趣味の活動	1	2	3	4	5

問 2　あなたは観光･生活文化事業学科で、つぎのことがらをどの程度勉強したいと考えていますか。それぞれについて該当する番号に○印をつけてください。（各項目に○印を一つ）

	ぜひ勉強したい	やや勉強したい	どちらともいえない	あまり勉強したくない	全く勉強したくない
1. 観光･旅行	1	2	3	4	5
2. 運輸（鉄道、航空）	1	2	3	4	5
3. イベント	1	2	3	4	5
4. ホテル･宿泊	1	2	3	4	5
5. アミューズメント・エンターテイメント	1	2	3	4	5
6. テーマパーク	1	2	3	4	5
7. ファッション･アパレル	1	2	3	4	5
8. ブライダル	1	2	3	4	5
9. 外食･フードサービス	1	2	3	4	5
10. スポーツ	1	2	3	4	5
11. 流通･販売	1	2	3	4	5
12. マーケティング	1	2	3	4	5
13. 医療サービス	1	2	3	4	5
14. 介護・福祉サービス	1	2	3	4	5
15. メンタルヘルス・カウンセリング	1	2	3	4	5

問 3　あなたは流通科学大学のつぎのことがらを、どのように評価していますか。つぎの項目それぞれについて、該当する番号に○印をつけてください。（各項目に○印を一つ）

	非常によい	ややよい	どちらともいえない	あまりよくない	全くよくない
1. 全体的な雰囲気	1	2	3	4	5
2. 全般的な設備	1	2	3	4	5
3. 教室	1	2	3	4	5
4. 図書館	1	2	3	4	5
5. メディアセンター	1	2	3	4	5
6. 体育館	1	2	3	4	5
7. 学生食堂	1	2	3	4	5
8. コンビニエンスストア	1	2	3	4	5
9. クラブハウス・学生会館	1	2	3	4	5
10. 休憩場所	1	2	3	4	5
11. 喫煙場所	1	2	3	4	5
12. 駐車場	1	2	3	4	5
13. 教育カリキュラム	1	2	3	4	5
14. 全般的な授業内容	1	2	3	4	5
15. 全般的な授業のレベル	1	2	3	4	5
16. 履修すべき授業時間数	1	2	3	4	5
17. 教員の対応	1	2	3	4	5
18. 職員の対応	1	2	3	4	5
19. 通学時間	1	2	3	4	5
20. 奨学金制度	1	2	3	4	5

問 4　あなたは授業に関するつぎの意見についてどう思いますか。つぎの項目それぞれについて、該当する番号に○印をつけてください。（各項目に○印を一つ）

	全くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1. 1コマ90分の授業は長すぎる	1	2	3	4	5
2. 資格取得に役立つ授業カリキュラムを増やして欲しい	1	2	3	4	5
3. 大教室での授業は集中しづらいので少人数の授業を増やして欲しい	1	2	3	4	5
4. 専門科目を低学年から充実して欲しい	1	2	3	4	5
5. 特定の曜日や時間帯に授業が集中的に配当されているので、偏りをなくして欲しい	1	2	3	4	5
6. 休み時間が短く、教室移動に支障をきたしている	1	2	3	4	5
7. 自分のとりたい授業が他の科目と重複して履修できない	1	2	3	4	5
8. 学生のニーズや視点に立った授業内容にして欲しい	1	2	3	4	5
9. 受講する学生数と教室定員がアンバランスである	1	2	3	4	5
10. 一般教育科目をもっと重視すべきである	1	2	3	4	5
11. 私語が多く、授業に集中できない	1	2	3	4	5
12. 年間の単位取得制限をゆるめて欲しい	1	2	3	4	5

【流通科学大学に入学する前のことについて】

問 5　どのように流通科学大学のことを知りましたか？（○印はいくつでも）

1. 幼い頃からなんとなく知っていた　2. 家族　3. 知人･友人　4. テレビ
5. 新聞　6. 雑誌　7. 高校での受験指導　8. 受験雑誌　9. インターネット
10. 車内広告　11. 看板広告　12. その他（　　）

問 6　どのように観光・生活文化事業学科のことを知りましたか？　（○印はいくつでも）

1. 幼い頃からなんとなく知っていた　2. 家族　3. 知人･友人　4. テレビ
5. 新聞　6. 雑誌　7. 高校での受験指導　8. 受験雑誌　9. インターネット
10. 車内広告　11. 看板広告　12. 流通科学大学の案内
13. その他（　　）

問 7　観光・生活文化事業学科を受験したきっかけは？（○印はいくつでも）

1. 志望の大学だった　2. 志望の学科だった　3. 高校の先生のすすめ
4. 高校の先輩がいる　5. 知人･友人のすすめ　6. 家族のすすめ
7. 自宅が近い　8. 奨学金制度が充実している　9. 経済的負担が少ない
10. 自動車通学が出来る　11. 設備がよい　12. カリキュラムが充実している
13. 教職員が良い　14. 自分の学力に合っている　15. オープンキャンパスに参加した
16. 受験日程が合った　17. 併願で受験料が割引きになった
18. その他（　　）

問 8　観光・生活文化事業学科に入学を決めたのはなぜですか。（○印はいくつでも）

1. 志望の大学だった　2. 志望の学科だった　3. 高校の先生のすすめ　4. 高校の先輩がいる
5. 知人･友人のすすめ　6. 家族のすすめ　7. 自宅が近い
8. 奨学金制度が充実している　9. 経済的負担が少ない　10. 自動車通学が出来る
11. 設備がよい　12. カリキュラムが充実している　13. 教職員が良い
14. 自分の学力に合っている　15. 他の志望大学に合格しなかった
16. その他（　　）

問 9　あなたは将来、どのような業種に就職したいですか。 就職したい業種、上位 3 つを番号で答えてください。

第 1 志望 [　　]　第 2 志望 [　　]　第 3 志望 [　　]

1. 建設業　2. 製造業　3. 情報通信業　4. 運輸業　5. 卸売業
6. 小売業　7. 金融･保険業　8. 不動産業　9. 飲食店・宿泊業　10. サービス業
11. 公務員　12. その他（　　）　13. 進学
14. 就職するつもりはない

問 10　あなたは将来、どのような職種につきたいですか。つきたい職種、上位 3 つを番号で答えてください。

第 1 志望 [　　]　第 2 志望 [　　]　第 3 志望 [　　]

1. 営業　2. サービス・販売
3. 管理（資材、購買、貿易、物流など）　4. 経理（経理、財務、会計など）
5. 事務（総務、人事、法務、知財、IR、事務、受付など）
6. 企画・マーケティング（広報、宣伝、商品企画、MD、経営企画、事業戦略など）
7. クリエイティブ系　8. 専門職系（コンサルタント・金融・不動産など）
9. 技術系（IT・通信系）　10. 技術系（メーカー系）
11. その他（　　）　12. 進学
13. 就職するつもりはない

問 11　あなたはつぎの意見についてどう思いますか。つぎの項目それぞれについて、該当する番号に○印をつけてください。（各項目に○印を一つ）

	全くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1. 流通科学大学の世間的評価は高い	1	2	3	4	5
2. 流通科学大学は自分にふさわしい大学である	1	2	3	4	5
3. 流通科学大学を後輩に薦めたい	1	2	3	4	5
4. 授業以外の目的で流通科学大学によく来る	1	2	3	4	5
5. 流通科学大学をまわりの人は評価している	1	2	3	4	5
6. 流通科学大学の教職員に好意的な印象を もっている	1	2	3	4	5
7. 流通科学大学で自分にふさわしい場所をみつけることができた	1	2	3	4	5
8. 流通科学大学に来るのは面倒くさい	1	2	3	4	5
9. 友人とのコミュニケーションが目的で流通科学大学によく来る	1	2	3	4	5
10. 流通科学大学は学生へのサービスがすぐれている	1	2	3	4	5
11. 流通科学大学に満足している	1	2	3	4	5

問 12　あなたの性別は

1. 男　　2. 女

問 13　あなたの出身高校は

1. 普通科　　2. 総合科　　3. 商業科　　4. 工業科　　5. その他（　　）

問 14　あなたは現在、学内のサークルやクラブに所属していますか

1. 所属している　　2. 所属していない

質問は以上です。記入モレがないか確認し担当の先生に提出